

第60回 車座集会（健康福祉局）

認知症の人とともに暮らす地域づくり

日時：令和5年9月16日（土）9：45～11：45

会場：高津市民館 大会議室

～ 次 第 ～

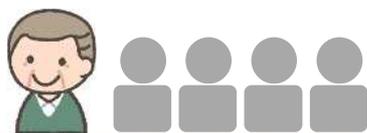
- 1 開会
- 2 事務局からの説明
- 3 ゲストスピーカー報告
 - ・ 普段の生活で感じていることや地域のつながりについて
- 4 意見交換（約70分）
 - ・ 「認知症の人とともに暮らす地域づくり」に向けて自分たちの立場で何ができるか
- 5 閉会

川崎市の認知症の状況について

令和5年9月16日

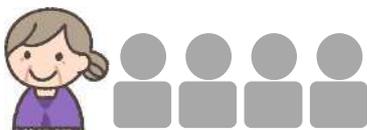
市民車座集会資料

本市の高齢者の現状



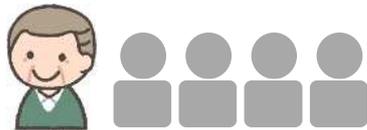
市の人口の**約5人に1人**が高齢者

(高齢者32.2万人/人口153.7万人)



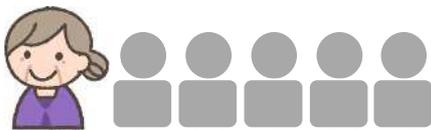
市の高齢者の**約5人に1人**が要介護等認定者

(要介護・要支援認定者5.9万人/高齢者32.2万人)



市の高齢者の**約5人に1人**がひとり暮らし

(ひとり暮らし高齢者5.8万人/高齢者30.2万人)



市の高齢者の**約6人に1人**が認知症(推計)

(認知症高齢者5.8万人/高齢者32.2万人)

※この表は、本市の全体的な高齢者の現状をイメージしていただくためのものであり、表中の数値は概算です。
※「要介護・要支援認定者」の数は令和2年10月1日時点で、第1号被保険者(65歳以上)の方をいいます。
※「ひとり暮らし高齢者」の数は、平成27年の国勢調査の結果です。
※「認知症」の方の数は、平成27年の認知症有病率に基づく推計であり、軽度認知障害(MCI)は含まれません。

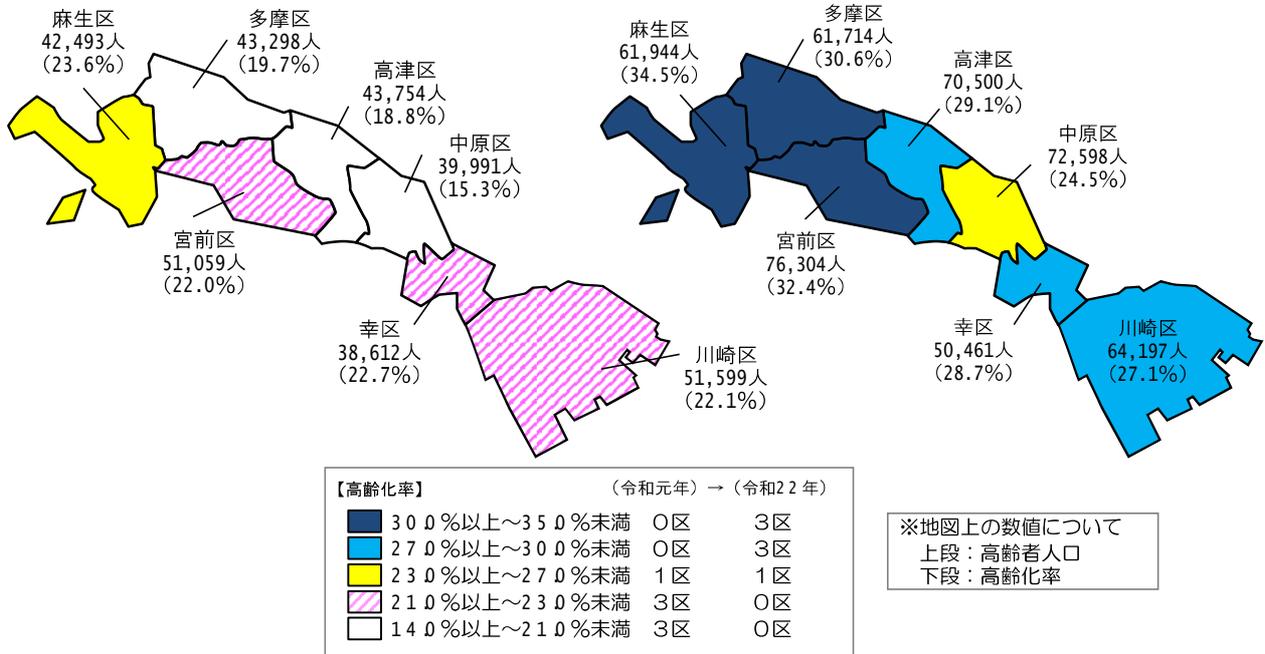
行政区別に見た高齢化の状況

●令和元（2019）年10月

▶川崎区、幸区、宮前区、麻生区で高齢化率が21%を超えています。

●令和22（2040）年（推計）

▶高津区、宮前区、多摩区、麻生区の高齢化率が10ポイント以上も上昇し、高齢化が急速に進む見込みです。

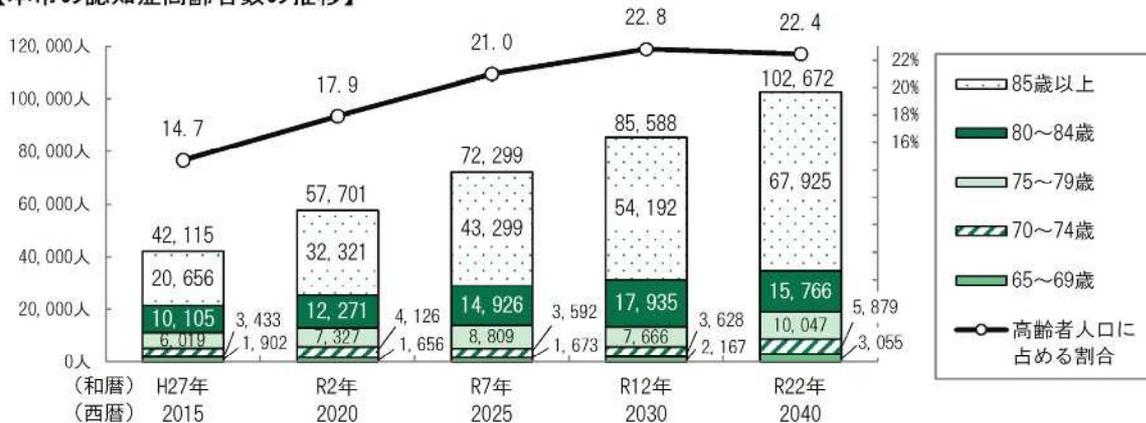


2

本市の認知症高齢者数の推計

本市の認知症高齢者数は、令和2（2020）年に5.7万人を超え、市の高齢者の約6人に1人が認知症であると推計しています。今後増加を続け、令和12（2030）年には約8.6万人、令和22（2040）年には約10万人まで増加すると想定しています。

【本市の認知症高齢者数の推移】



※「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」（平成26年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業 九州大学二宮教授）から作成しています。

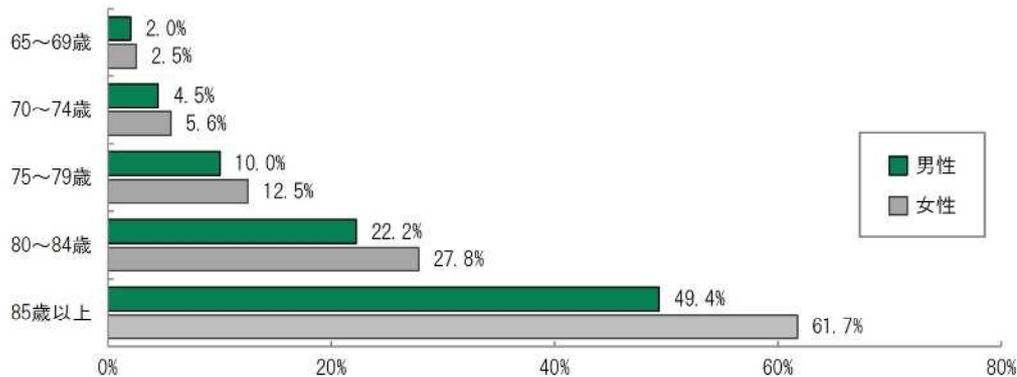
※この推計は、平成27年国勢調査をベースに、本市総務企画局が平成29年5月に公表した「川崎市総合計画第2期実施計画の策定に向けた将来人口推計について」に、認知症有病率を乗じて算出したものです。認知症有病率に軽度認知障害（MCI）は含まれません。

3

年齢別認知症の有病率

わが国全体の性別・年齢別の認知症にかかる方の割合（有病率）は、85歳以上になると大きく上昇し、男性が約5割、女性が6割以上の方が認知症になると推計されています。

【令和2（2020）年の年齢別有病率（参考：全国値）】



※「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」（平成26年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業 九州大学二宮教授）から作成しています。

※この推計は、平成27年国勢調査をベースに、本市総務企画局が平成29年5月に公表した「川崎市総合計画第2期実施計画の策定に向けた将来人口推計について」に、認知症有病率を乗じて算出したものです。認知症有病率に軽度認知障害（MCI）は含まれません。

4

認知症基本法の概要（令和5年6月成立）

共生社会の実現を推進するための認知症基本法 概要

1.目的

認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができるよう、認知症施策を総合的かつ計画的に推進

⇒ 認知症の人を含めた国民一人一人がその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会（＝共生社会）の実現を推進

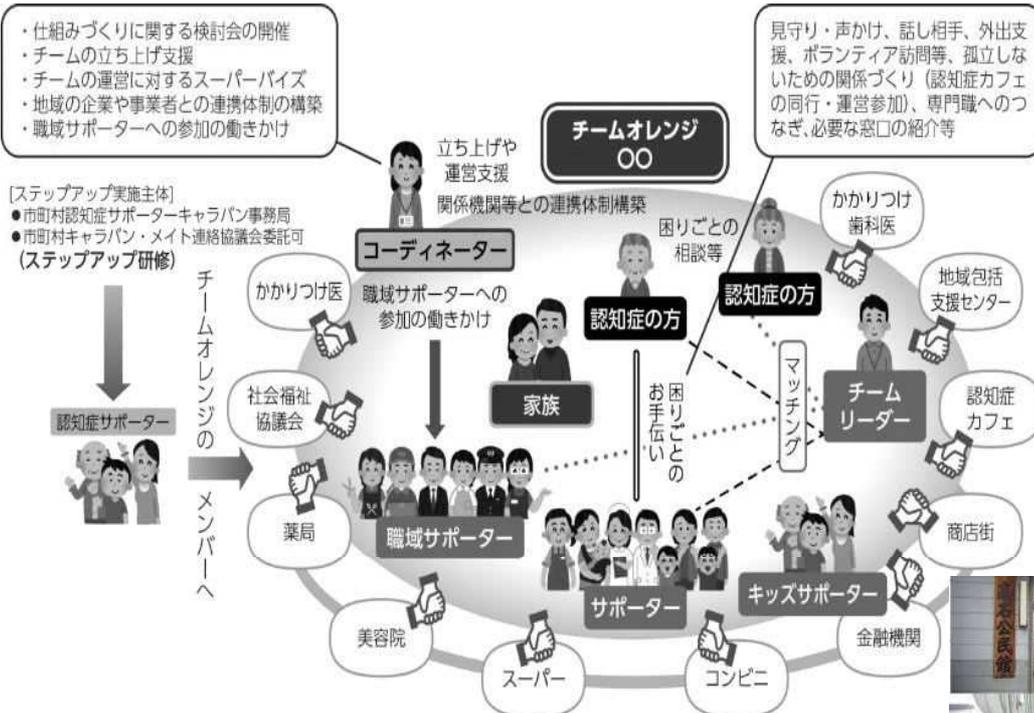
～共生社会の実現の推進という目的に向け、基本理念等に基づき認知症施策を国・地方が一体となって講じていく～

2.基本理念

認知症施策は、認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができるよう、①～⑦を基本理念として行う。

- ① 全ての認知症の人が、基本的人権を享有する個人として、自らの意思によって日常生活及び社会生活を営むことができる。
- ② 国民が、共生社会の実現を推進するために必要な認知症に関する正しい知識及び認知症の人に関する正しい理解を深めることができる。
- ③ 認知症の人にとって日常生活又は社会生活を営む上で障壁となるものを除去することにより、全ての認知症の人が、社会の対等な構成員として、地域において安全かつ安心して自立した日常生活を営むことができるとともに、自己に直接関係する事項に関して意見を表明する機会及び社会のあらゆる分野における活動に参画する機会の確保を通じてその個性と能力を十分に発揮することができる。
- ④ 認知症の人の意向を十分に尊重しつつ、良質かつ適切な保健医療サービス及び福祉サービスが切れ目なく提供される。
- ⑤ 認知症の人のみならず家族等に対する支援により、認知症の人及び家族等が地域において安心して日常生活を営むことができる。
- ⑥ 共生社会の実現に資する研究等を推進するとともに、認知症及び軽度の認知機能の障害に係る予防、診断及び治療並びにリハビリテーション及び介護方法、認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすための社会参加の在り方及び認知症の人が他の人々と支え合いながら共生することができる社会環境の整備その他の事項に関する科学的知見に基づく研究等の成果を広く国民が享受できる環境を整備。
- ⑦ 教育、地域づくり、雇用、保健、医療、福祉その他の各関連分野における総合的な取組として行われる。

チームオレンジの取組について



出典：厚生労働省資料を一部改変



麻生区内でのチームオレンジの取組

認知症の人の声

ボランティヤ
やりたいの、何でもやらせて。

少し早く認知症になった先輩から話を聞きたい

認知症でも働ける場所がある

いつでも行けて、お茶や話ができる場所

かつての趣味 (書道、茶道) もう一度やってみたい!

認知症の人が利用しやすいお店 (スーパー) がある

車がびゅんびゅん走っていない方が良い

やりたい事

出来る事なら何でも手伝うよ

暮らしやすいまち

買ったときに (徘徊など) 近所の人 が 助けてくれる

お彼岸だから “おはぎ” が食べたい。 “おはぎ” はよく作っていたから、自分で作りたい。

買物が困難、バスがあると便利

近所の人とお互い顔が見える地域

喫茶店で音楽を聴きながらお茶を飲みたい

60~70代の異性の話し相手がほしい

話す場があればいいんだよ、どこでもね!

声かけしやすい地域

認知症の人の声

麻生区では、「認知症にやさしいまちあさお」をめざして、認知症の人の想いを聞きながら、暮らしやすいまちにつながる取組を推進しています